

広報



しうら

●全世界配布

●村政と村民をむすぶ広報紙



みなさんに
育まれて

ここに
100号



12月No.100

広報しうらは昭和32年8月に創刊号4ペ
ジ(タブロイド)を刊行してから17年4カ月
ついに百号を迎えました。
しかし、百号の足どりは17年という長い年
月が示すように、決して平坦なものではあり
ませんでした。
32年から6年間にわずか4号の発行、そし
て隔(かく)一月と、毎月発行の形をととのえ
たのは、41年5月号からでした。
ひと口に百号といってしまうばそれまでで
すが、なるべく振り返りてもらうように。ひ
とりでも多く読んでもらうように……と念願
しつつ編集してきました。
村民のみなさんは村政について知る権利を
持っています。また、村は知らせる義務のあ
るところ。「広報」はその権利と義務の一翼
をにならせます。百号を機に、さらに村民
の中に育つ広報にしたい考えです。
ゼヒみなさんの手で「広報しうら」をより
たくましいものに育てあげてもらいたいです。
です。

出かせぎ者との架け橋に

薄浅 信一さん(39) 十三



ことしまもた、冬型の出かせぎ者が妻子を残して旅立ちました。つい先日、もはや帰郷するはずのある家庭の父が、

悲しい姿で迎えられるという、出かせぎ事故がありました。

ところで、広報百号を機に、新しい企画としてわかりやすい労基法、健康管理、就労安全管理等出かせぎ者に即した記事をシリーズでとりあげてほしいと思う。

さらに、出かせぎ者からそれぞれの苦情を投稿させ、出かせぎ者共通の悩みを解決していただきたいと思ひます。出かせぎは、市浦村の大きな産業ですが、それだけに広報のもつ役割も大きいと思ひます。

村勢発展のカナメに

高西兼代さん(51) 脇元



音もなく流れゆく歳月は、人それぞれの胸に新しい思い出をのこしながら去つてゆく。早いもので「広報しうら」も村政と村民を結び架け橋となつて、今月で百

号を迎えたいこと、村民の一人として心からお祝ひようく社会勢は、私たちの生活をゆがめ、足もとはやらなければならぬことがたくさんあるような気がします。

どんな小さなことの一つでも、一人ではできない大きなものでも、みんなが手を調和のとれた地域の環状づくりが可能だと思ひます。湖面に投げた小石の波紋が大きく広がりを認めるように、広報百号の波紋が人と人の触れ合いを深め、やがては村勢発展の要(かなめ)になることをお祈りいたします。

広く意見交換の場に

三和博明さん(37) 相内



「広報しうら」発刊百号おめでとうございます。住民との対話が強く求められている今日、市広く取材され、行政広く

報の持つ役割を果たしてきた実績は、高く評価されていると思ひます。最近の人々は経済優先のあまり、なに

ある小学校の学級新聞に大きくなつたら、どんな人になりたいか、というアンケートがありました。それによると野球の選手、会社の社長、パイロット等いろいろな職業が出ていますが、その理由は「金持ちになりたいから」と答えています。わたしたちは、小手先の金でのごとを解決しようとしていないか、じっくり対話 はかつてゆくべきだと思ひます。

このようなときに、広報のもつ意義は益々大きいものがあるかと思ひます。これからも、村からの連絡にとどまらず、広く村民との意見交換の場として発展するよう希望します。

おめでとう 広報100号

郷愁を誘つた広報紙

和島洋子さん(19) 磯松



「広報しうら」が今月で百号をかぞえるというところで、私たち村民にとつても編集スタッフのかたがたにとつても、大変記念すべきことだと思ひます。

私が特に広報紙を待ち遠しく思つたのは、高校生活を青森で過した三年間でした。村の状態がひと目で、手に取るようにわかるのが心強かつたり、郷愁を誘つたりしました。

ただ、一人だけしか配布されないために、兄妹三人との回し読みが多く、私の手もとくるころは、大分、日付けの古いものになることがしばしばでした。節約が叫ばれている現在、一世帯に数枚ということとは不可能にしても、村外に出ていたかたが、毎号すこしでも早く「広報しうら」を読めるようにできたら、と思ひます。

村民のための広報紙を

三和孝徳さん(38) 相内

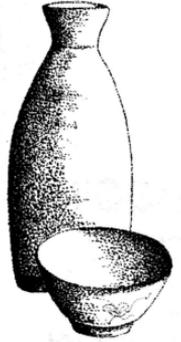


「広報しうら」が、三十二年八月一日に創刊号を発行してから百号を迎え、まことにおめでとうございませう。

ひと口に百号といつてもこれまでの関係者の苦勞は並み大抵ではないことではなかつたと思ひ、幾多の困難があつたと思ひます。

二、ユース取材、原稿、写真、編集、印刷、校正と、どれを取ってみても生やさしいものはありません。いまや「広報しうら」は、村民にとつて欠かすことのできないものになつていませう。村の出来事、お知らせ、ふるさと伝説など、見て読んでもめになる広報であり、またこれほど読まれているものないでしょう。これから村民のための広報紙として益々発展されることを期待いたします。

冬の交通安全運動にご協力を



持て「罪悪感」

ぜつたいやめよう 飲酒運転

交通事故はいまや大きな社会問題、とくにあつただし年末には、急増するが特徴です。

窃盗(せつとう)などの一般犯罪にくらべて交通事故に対する罪悪感が薄いとくに運転者や歩行者の自覚がのぞまれるところです。

ところで、十六日から三十日までの十五日間、年末の交通安全運動がくり広げられています。この運動はとくに飲酒運転の追放をかね、年の暮れに不幸な交通事故が合わないよう呼びかけています。

酔っぱらって車のハンドルをにぎるということは常識で考えられないことですが、酒を飲んだら乗らない、乗せない、運転するときは飲まない、の三つをそれぞれ立場で守ればよいことです。

飲酒運転は酒量に関係なく、すぐ逮捕です。交通犯罪をなくしましょう。



お知らせ

工業統計調査にご協力を

十二月三十一日現在で製造業の調査が行なわれま

もとづいて行なう工業統計調査です。製造事業所の本社、本店について調査します。

税金などの申告書の不利益になるようなことは絶対ありません。調査員が訪問したときは、よろしくご協力ください。

農業用軽油免税の申請を

昭和五十年に使用する農業用免稅軽油の申請受けつ

け日はつぎのとおりです。

▽受付期日 十二月二十三日～二十五日

▽受付場所 五所川原県税事務所

申請に必要な諸用紙は農協、石油製品販売店にあります。

免税証の郵送料として一〇〇円の切手をえて、農協または石油販売店を経由して申請してください。

●受けつけ期日は、県税事務所受けつける期日です。それ以前に農協または石油販売店へ申請書類を提出してください。

なお、不明の点がありましたら、五所川原県税事務所軽油引取税係へおたずねください。

(電話五一二五四九番)

役場の年末勸務は28日まで

年の瀬はなにかとあつたらしいもの、印鑑証明や戸籍簿、抄本の請求や納税する人などで役場を訪れる人も増加します。

ご用のかたは早目にどうぞおいでください。役場は二十八日が「ご用納め」で午前中です。

新年は一月四日が「ご用はじめ」ですから、事務が開始されるのは六日(月)からになります。

犬の放し飼いはやめよう

最近、犬の放し飼いが目立ち、子猫もたに噛みついたり、交尾のさまたげになっているという苦情が絶えません。

犬はかならずつないでおくよう決められています。また、飼い主は登録を忘れることなく、予防注射を受けなければなりません。

いらない犬は捨てず、役場へ連絡してください。犬の放し飼いはやめましょう。(民生課)

年賀状はなるべく22日まで

郵便局では年賀状が間違いない元旦に届けるため、つぎのことに注意するようのでんでいます。

- 受取人の住所、氏名をハッキリくわしく書く。
- あてなの郵便番号も忘れないこと。
- 郵便番号を書けば都道府県名は省略できる。

- 友だちに出すときは、おとうさんの名前(肩書)も書く。
- 自分の郵便番号、住所、名前も忘れずにハッキリくわしく書く。
- 22日が過ぎますと混雑して元旦配達むづかしくなります。

保健

冬のお年寄りの健康

夜寒をかばおう

頭寒足熱は健康のもと、といつて、頭を寒風にさらしている人もありますが、お年寄りになると脳の血管もかなり硬くなつているので、寒さにあうと、血管が縮んで血圧があがり、寒い戸外に出たときに、たおれることもあります。冬には、帽子、手袋、えり巻きを忘れないようにしましょう。

小さなことに注意したい

季節のかわり目には、カゼをひかない工夫をしましょう。それには、できるだけ、入浴に出ないようにし、カゼをひいている人のそばにいかないようにしましょう。気温にあわせてこまめに

衣服の調節をしましょう。へやの掃除のときは、他のへやにつりましょう。足が弱つているので、階段からころおちたり、つまずいてころびやちり、手足や腰などの骨折もしやすいです。

家の中のシキイなど、ちよつと高い高さのあるところや、すべりやすい廊下、階段などでころびやすいのです。冬は、とくに着ぶくれで動作が不自由ですから、家人も気を付けたいものです。

お年寄りの健康にストッブをかけるのは、決して大きな病気ではなく、カゼ、単純な下痢、小さなケガなどです。

冬の入浴

急に、あたたいところから寒いところに出たり、また、その反対の気温、室温の変化にさらされることは、血圧の急な変化がおこるので、ききたいものです。

そのために、冬の入浴には、よく気をつけましょう。冬の脱衣場も、あたたかいことがのぞましいので、風呂の温度は、あつすぎないようにします。浴槽に入る前には、充分かけ湯をして、身体をお湯にならしめ、浴槽には、静かに入りましょう。

はじめから急に、肩までつかないように入ります。心臓の下あたりまで、まずつかり、そのあと静かに、肩までつかりましょう。長湯や、上りきわに水をあびることはさけましょう。また、湯がめをしないようにしましょう。



「飲酒運転の追放を呼びかけている相内警察官駐在所」

巡査部長 木村光義さん(57)

「飲酒運転はもはや単なる交通違反でなく、交通犯罪といわざるを得ません。」

テレビの調整

修理は早めに

歳末からお正月にかけては、お休み続きのためテレビをみる時間もふえ、ふだん手入れを怠っている受像機の故障が多くなります。

電器店も暮はいそがしく、お正月は休業するところがほとんどで、急の故障で修理が間に合わず、楽しいはずのお正月が寂しくなつてしまいます。手入れ調整、修理は早めにやっておきましょう。

また大みそかに「〇〇時までテレビをお求めの場合は、紅白歌合戦まで配達、取付けいたします」といった販売サービスがありますが、お求めの場合には取付けの際、必ずお店の人にアンテナとテレビの接続部分や調整は確実にやってもらい、完全な状態で設置してください。

せん

年末の交通安全運動は三十日まで行われるが、この季節は忘年会やクリスマスなどで酒を飲む機会が多くなり、例年、酒飲み運転による事故が絶えないという。「飲酒運転の追放」といつても、事実、速効薬「ハンドルをにぎるとはなりません。でも一人ひとりが自覚を」

一人ひとりが自覚を

一人ひとりが自覚を。一人ひとりの自覚に待つほかありません。警察の取締りにより、境界をなせ守れないのか、ふしぎでなりません。本村へは四十四年四月昭和三十四年九月の拝命だから、警察官として三十五年のキャリアをもつベテラン。歯に衣(きぬ)二階級昇進した。

今月の訪問

ふるよとの伝説 (7)

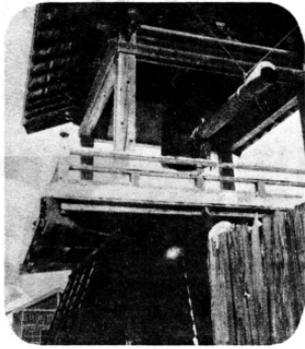
十三浦に沈んだ梵鐘

山内 英太郎

正徳二年(三三七)のこと
 東日流・飯積(五所川原市飯詰)の長円寺では、京都の釜座から釣鐘二つを買入れ、海路十三の湊に運びました。
 十三から飯積までは、川舟に積みかえて岩木川をたどり、十川を登らなければなりません。川舟に積みこまれた梵鐘は雄鐘と女鐘の二つでしたが、舟が岩木川にさしかかろうとしたとき、十三浦にはげしい風が巻き起り、舟は木の葉のように揺れうごきました。
 ころがり動く鐘のため、舟はバランスを失い転ぶくしそうになることもたびたびでしたが、やがて、大きな竜巻が起り、舟上の女鐘は吊り上げられて、あれよあれようちに、湖底

から語っているようにひびくのでした。
 一方、十三浦に沈んだ女鐘は陽の目を見ることもなく、時折、湖底からむせび泣くような鐘の音をたどわせていたというのですが、ふしぎなことに、長円寺の雄鐘が打ち鳴らされるとそれに合せてなうにいと悲しく、
 十三浦恋しや……
 雄鐘恋しや……
 ゴーン……

しかたなく、残りの雄鐘を十川から飯積の長円寺に運び、鐘樓に釣り下げました。お寺では大ぜいの村びとを集め、僧侶の読経のうちに、初打鳴らしの式があげられました。
 やがて、初打つ鐘木が長円寺任職の手に打つて力いっばい突き放されました。その鐘の音は股々(いんいん)として四圍に鳴りひびきました。しかし、どことなくもの悲しい余韻を残すのでした。
 それは、
 十三浦恋しや……
 女鐘恋しや……
 ゴーン……
 と、あたかも鐘が泣きながら語っているようにひびくのでした。



五所川原市飯詰にある長円寺の梵鐘

夜も、長円寺の鐘とは別に鳴りひびいたという。
 これは余聞ですが、湖底に沈んだ鐘は女鐘であるところから、十三浦に竜巻を起した雄鐘が恋人にしたいあまり奪つたという話もあり、これを主題にした民話もたくさんあります。
 また、梵鐘の雄鐘(めすおす)は、鐘の釣りに女竜、雄竜の彫刻をすることによって区別されたものです。十三浦に沈んだ鐘の釣りに立派な女竜の彫刻があつたということですから、湖底に住んでいた雄竜があまりの美しさに、ぞつこんはれこみ、竜巻を起こして女鐘を奪つたのではないのでしょうか。

戸籍の窓



お誕生

高橋 誠(新潟) 得治
 笹山 恵一(脇元) 精喜



二結婚

岩本 利明(十三) 成田 とよ(青森)
 岸本 秀樹(登別) 三浦 栄子(相内)

釜やち 完(青森) 梶浦 和子(十三)

田中 一美(小泊) 古川 札子(太田)

角田 行雄(金木) 伊藤みり子(桂川)

佐藤 峰樹(相内) 茂木 恵子(東京)

村の人口	
世帯数	1,076
人口	4,603
男女	2,265
男女	2,338
(12月1日現在)	

おくやみ
 斎藤 たよ(脇元) 60歳

尾野 昭雄(稲垣) 三和美緒子(相内)
 成田 国昭(相内) 木立 和子(青森)
 阿部 祐司(金木) 奈良 富子(相内)
 成田 孝雄(脇元) 派野ヨシエ(小泊)
 三浦 正輝(相内) 岩間 清子(岩手)
 白川 淳(相内) 斎藤 静子(千葉)
 外崎 繁美(脇元) 角谷 栄子(中里)
 奈良 春夫(十三) 清水マリ子(東京)